

種市氏が初当選



〒030-0180
青森市第二問屋町3丁目1番80号
東奥日報社
電話 017-739-1111
(C)東奥日報社 2007

インターネット
号外

ご購入のお問い合わせは
東奥日報社読者局



0120-46-5939

ヨム

コウドクサンキュー

三沢市長選

「鈴木市政」継承へ



初当選を祝い乾杯する種市さん(右)と妻のテイ子さん(左) 10日午後5時22分、三沢市桜町3丁目の選挙事務所

鈴木重令前市長の死去に伴い十日に告示された三沢市長選は、同日午後五時で立候補の届け出が締め切られ、無所属の新人で前農協四連会長の種市一正氏(65)が自民推薦以外に届け出がなく、無投票で種市氏の初当選が決まった。

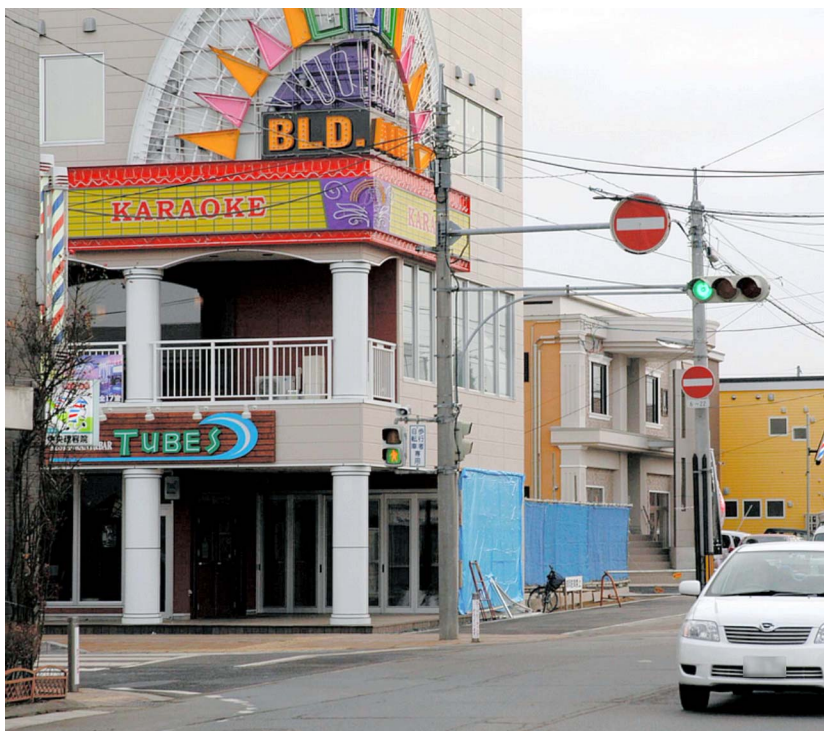
種市氏は、鈴木市政の継承と市民本位の政治を基本姿勢とし、公約に「第一次産業の振興」「アメリカ村」整備などまちなか再生事業の推進、広域観光の推進、安心して暮らせるまちづくりなどを掲げた。市の最大の課題ともいえる基地問題についても鈴木市政と同様に「共存共栄」の立場を取る。種市氏は五月二十二日に出馬を正式表明。市議会の保守系と野党会派がそろって支持を打ち出したほか、後援会には地元選出県議や市内各界の代表が名を連ねるなど、盤石の態勢を固めた。

農協トップから市長の座に

種市氏「基地の街」かじ取り



基地問題や中心市街地の活性化など、三沢市政の課題は山積している。写真は格納庫内で最新鋭のGPS爆弾の搭載訓練をする米軍三沢基地のF16戦闘機



米国風の店舗が建ち始めたアメリカ村。市を挙げた商店街再生事業は正念場を迎えている

三沢市長に初当選した種市一正氏(65)はこれまで、県農協四連会長として県の農業発展に尽力

したほか、本県では初めて全国農業協同組合連合会(全農)会長を約一年間務めた。今後は農協トッ

プとしての経験を生かし、基地問題や中心商店街再生、市財政の健全化など市政の課題にリーダーシップを発揮することが求められる。

種市氏は三十六歳の若さで三沢市農協理事に就任。市農協組合長などを経て一九九六年に四連会長に就任し、農協合併問題などに取り組んだ。また、全農会長として国産農作物の競争力強化や全国の農協の経営健全化などに尽力した。

周囲からは「いちずに信念を貫く人」「気配りを忘れない」などと評価される。何事も力を合わせる必要がある、という意味の「独掌鳴らず」が座右の銘だ。

詳細は11日(木)刊